

## ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 特任准教授</p> <p>松 井 佳 子 (まつい けいこ)</p> <p>MATSUI Keiko</p>
所属	保 育 科
学位	修士 (法学) (慶應義塾大学)
資格・免許	—
学歴・職歴	<p>平成 元年 4月 慶應義塾大学法学部政治学科入学</p> <p>平成 5年 2月 オーストラリア国立大学 (平成5年12月まで)</p> <p>平成 6年 3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業</p> <p>平成 8年 3月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了 (修士 (法学))</p> <p>平成 10年 4月 オーストラリア国立大学豪日研究センター訪問研究員 (平成10年12月まで)</p> <p>平成 12年 3月 慶應義塾大学大学院後期博士課程単位取得退学</p> <p>平成 11年 10月 玉川大学文学部教育学科・経営学部国際経営学科兼任講師 (「政治学」「国際関係論」「国際情勢」) (平成16年3月まで)</p> <p>平成 12年 4月 日本学術振興会特別研究員 (PD) (平成15年3月まで)</p> <p>平成 12年 4月 大東文化大学法学部政治学科兼任講師 (「海外地域政治研究 (オセアニア)」) (現在に至る)</p> <p>平成 14年 4月 玉川大学教育学部教育学科兼任講師 (「平和と人権」「政治学」「国際関係論」「グローバリゼーション論」) (平成18年3月まで)</p> <p>平成 18年 4月 山梨学院短期大学保育科助教授 (平成19年4月から法改正に伴い准教授に職名変更) (「社会」「総合演習 (現代社会の課題)」「幼稚園教育実習指導」「基礎演習」) (平成21年3月まで)</p> <p>平成 18年 4月 山梨学院短期大学専攻科保育専攻兼任 (「社会科概論」「修了研究」) (平成21年3月まで)</p> <p>平成 21年 4月 山梨学院短期大学保育科兼任講師 (「現代の国際関係と日本」) (平成27年3月まで)</p> <p>平成 27年 4月 山梨学院短期大学保育科特任准教授 (「国際政治と子どもたち」「社会科概論」他) (現在に至る)</p>
担当科目	国際政治と子どもたち 社会科概論 国際教育社会特論 専攻科修了研究
専門分野	国際社会学 国際関係論 オーストラリア地域研究
現在の研究テーマ	子どもの権利 多文化教育 オーストラリアの多文化社会について
競争的資金等の研究課題	該当なし
所属学会	日本オーストラリア学会 日本国際政治学会
メッセージ	現在の仕事との出会い、大切な友人との出会いなど、現在の自分自身に影響を与えている大切な出会いが大学時代にありました。皆さんが山梨学院短期大学で過ごす時間やここでの学びが、皆さんの人生の糧となることを心から願っています。

教育	
2021年4月～2022年3月	
教育方針	<p>主体的に社会と関わり、自分の生きる道を模索し続けられるような力を身につけて欲しい。また、子どもと関わる専門職を目指す学生が、人種、宗教、文化、セクシャリティ、考え方など、社会における様々な多様性を認識し、寛容性を備えることができるよう支援したい。</p>
授業	<p>授業の工夫</p> <p>&lt;社会科概論&gt;</p> <p>社会科は暗記科目として認識されることも少なくないが、本来は、社会の構成員として、いかに幸福に、よりよく生きていくのかを考えるために主体的な学びが必要な科目である。本講義では将来、小学校教員として児童生徒に対してそのような授業運営ができることを目指すと同時に、学生自身も主体的学びの姿勢を身につけることができることを目指した。そこで、小学校の社会科授業の背景となる社会、政治、公民的知識を学ぶとともに、毎回のディスカッションや、各自で調べた上でプレゼンテーションする機会を取り入れるなどのアクティブラーニングを積極的におこなった。</p> <p>&lt;国際教育社会特論&gt;</p> <p>保育科の学生は小学校免許の取得を目指すことも多いが、近年では異文化につながる児童生徒の学びについても考慮して、誰もが排除されない教育をおこなう視点が重要となっている。本授業では、保育者や小学校教員として異文化に繋がる子どもや保護者に配慮すべきことについて学ぶと共に、日本人の子どもにとってもその環境がメリットとなるような多文化教育の展開について考えを深めた。また、学生が国際的な視野を広げることができるよう海外の事例についても積極的に紹介し、広い視野を持つことを目指した。またグループワークを取り入れながら、各自が自分自身の意見を持つことができるまで学びを深められるよう努めた。</p> <p>&lt;国際政治と子どもたち&gt;</p> <p>学生の中には世界の子どもたちに対する関心が高い人も非常に多いが、本講義は、本科の学生が本学の2年間の中で、世界の諸課題や国内の多文化的状況などについて学ぶ数少ない機会であるにとらえて講義をおこなっている。したがって、現代の事例についても多く言及するよう心掛け、学生が日々の生活の中で問題意識を涵養できるよう努めている。また1年次の履修科目でもあるため、卒業レポートのテーマ選びの際の参考にもできるよう、どこに課題が存在していると考えられているのかという問題の所在の説明も意識しておこなっている。社会科系科目への苦手意識や思い込みにとらわれないように、例年、画像や図表などで視覚化した独自のスライドを利用しながら講義をおこなっている。</p>

教育 (つづき)		
2021年4月～2022年3月 (つづき)		
授業 (つづき)	授業改善のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年からは、学生自身が自らの学修成果を振り返ると共に、教員からのフィードバックができるよう、講義の前にリアクションペーパーを配布し、その回の学修目標をあらかじめ明確にし、達成状況（自己評価）と理解度を各自に評価してもらおうと共に、コメントや質問などを書いてもらって回収し、次回の講義に生かしている。</li> <li>・2020年度の一時期オンライン授業での経験から、対面授業の際もWebClassを通じて授業後課題、感想やアンケートなどを日常的に実施している。授業内で文字を書くよりは、デジタルデバイスを利用した方が少ない時間で多くのことを書くことができるようで、感想や課題の文字数が圧倒的に多くなり、内容も深まることを感じている。また、書いてもらったものにコメントをして返却することは、大人数の場合、返却時間にほかの学生を待たせるというデメリットもあるが、オンライン上で提出してもらったものには個別にリプライをすることができるため、返却に授業時間を割く必要がないというメリットも存在する。ICT教育については今後も自らも学びながら、試行錯誤していきたいと考えている。</li> </ul>
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	本年度の専攻科の修了研究ゼミでは2名の学生を指導した。前期は個別の研究関心を探り文献調査の指導をおこないながら、研究テーマにあわせた質的研究、量的研究のおこない方、研究倫理についてなど、修了研究に必要な研究手法について学んだ上で、夏休みにそれぞれの調査を実施した。新型コロナによる影響でインタビューや調査などにもある程度の制約が生じる中でも工夫し、Google フォームを利用した約200名を対象としたアンケート調査や、インタビュー調査などを実施して研究を深めることができた。
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ視聴、携帯電話とゲーム利用に対する母親の介入行動に関する一考察 ー母親へのインタビューを通じて</li> <li>・短期大学生の性的マイノリティに関する知識と意識についての一考察</li> </ul>
課外活動	該当なし	
2021年3月以前		
主な教育業績	記載省略	

研究		
2021年4月～2022年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 不登校はどのような「問題」とされてきたのかー「問題」から子どもの権利の模索へ （単著）	令和3年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第42巻（pp. 55-66）
2021年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） 『多文化交差世界の市民意識と政治秩序形成』（共著） <担当部分> 第一章「オーストラリアの『アジア太平洋国家化』言説と多文化主義」（共著）	平成20年1月	慶應義塾大学出版会
（学術論文） 小学校における性的マイノリティ支援と理解に関する考察ー小学校教員に対する質問紙調査を通してー （共著）	令和2年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
（学術論文） 転換期の南太平洋地域におけるオーストラリア外交 （単著）	平成29年12月	教職課程センター紀要 2号 （大東文化大学教職課程センター） （pp. 259-266）
（学術論文） オーストラリア外交における難民問題と地域的解決の模索 （単著）	平成28年2月	法学研究 第89巻第2号 （慶應義塾大学法学研究会） （pp. 289-315）
（学術論文） オーストラリアの多文化主義から見えるもの （単著）	平成24年3月	国際比較政治研究 第21号 （大東文化大学国際比較政治研究所） （pp. 36-51）
（学術論文） 多文化社会における社会統合に関する一考察：オーストラリアのシティズンシップ・テスト導入について （単著）	平成21年3月	山梨学院短期大学紀要 第29巻

研究 (つづき)		
2021年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) オーストラリアによるカンボジア和平プロセスへの参入－第三者としての役割の模索とASEAN諸国の反応 (単著)	平成16年	法学政治学論究 第62号 (慶應義塾大学大学院法学研究科) (pp. 1-34)
(学術論文) オーストラリア外交におけるミドルパワー意識の起源 (単著)	平成13年	法学政治学論究 第50号 (慶應義塾大学大学院法学研究科) (pp. 1-32)
(学術論文) カンボジア和平プロセスにおけるオーストラリア提案－提案の形成過程にみるミドルパワー外交 (単著)	平成11年	法学政治学論究 第43号 (慶應義塾大学大学院法学研究科) (pp. 247-277)
(学術論文) オーストラリアの提携外交に関する一考察－APECイニシアティブにおけるミドルパワー外交 (単著)	平成9年12月	オーストラリア研究 第9号 (筑摩書房)
社会貢献 産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2021年4月～2022年3月		
該当なし		
2021年3月以前 (主なもの)		
該当なし		
受賞 ※個人、所属団体		
農林水産省 第3回 食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞」(2019年) 富士ゼロックス小林節太郎記念基金フェロウシップ受賞 (1997年)		